

令和 6 年 5 月 31 日現在

機関番号：36101

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2023

課題番号：20K12939

研究課題名（和文）和歌史のなかの古今和歌六帖 歌集の構成を中心に

研究課題名（英文）"Kokin Waka Rokujo" in waka history

研究代表者

田中 智子（Tanaka, Tomoko）

四国大学・文学部・講師

研究者番号：00807422

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 900,000円

研究成果の概要（和文）：10世紀後半に成立したとみられる『古今和歌六帖』について、その和歌史的意義の研究を行った。具体的には、同集の歳時部と『古今和歌集』の四季部の比較検討や、『伊勢物語』との重複歌などの分析を通じて、『古今和歌六帖』の生成の経緯について考察した。その結果、『古今和歌六帖』が『古今和歌集』や『伊勢物語』等の作品の影響を受けつつ成立し、またその一方で『伊勢物語』の後補章段の成立に寄与したことなどを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

『古今和歌六帖』は万葉歌の平安朝における享受史の観点でも、『源氏物語』や『枕草子』等の後代の作品に与えた影響史の観点でも注目すべき歌集である。本研究は、『古今和歌六帖』がいかなる和歌史的文脈のなかで成立した歌集であるのか、また、『伊勢物語』等の生成にいかに寄与したのかを明らかにしたものであり、『古今和歌六帖』研究に資するのみならず、広く古代和歌研究に資するものとしての意義を有している。

研究成果の概要（英文）：This study was conducted on the historical significance of "Kokin Waka Rokujo," which is created in the late 10th century. Specifically, the process by which "Kokin Waka Rokujo" was created was examined through a comparison of the Shiki no bu of "Kokin Wakashu" with the saiji bu of "Kokin Waka Rokujo," and an analysis of poems in "The Tale of Ise." As a result, it was clarified that "Kokin Waka Rokujo" was created while being influenced by works such as "Kokin Wakashu" and "The Tale of Ise," and that "Konkin Waka Rokujo" also contributed to the creation of the later supplementary chapters of "The Tale of Ise."

研究分野：和歌文学

キーワード：古今和歌六帖 古今和歌集 歳時部 伊勢物語

1．研究開始当初の背景

『古今和歌六帖』は10世紀後半頃に成立したとされる私撰集である。約4500首もの多数の歌を収集する点、またそれらの歌を22部500余の項目に分類・配列する点に、同集の大きな特徴がある。同集は万葉歌・『古今集』歌・出典未詳歌等の多様な歌を収載し、その所載歌が『源氏物語』や『枕草子』にも多数引歌された、文学史上逸しえない重要な歌集である。それゆえ『万葉集』の訓読との比較研究や、『源氏物語』における引歌研究などの方面から研究が進められてきたが、同集そのものの構成や和歌表現の特色・傾向についての研究は充分になされてこなかった。その背景には、同集には序文がなく編纂意図や編纂時期等が明確でないこと、時代の下る伝本しか現存せず（文禄4年（1595）の奥書をもつ永青文庫本が最古の写本）本文に不審な点が少なくないことなどの事情があった。しかし近年、同集の諸伝本の本文を比較した校本（黒田彰子『校本古今和歌六帖』（科研費 課題番号22520209研究成果報告書、2015年）が作成されたことにより、同集の本文研究を進めるための基盤が整った。

如上の学界の動向を受けて本研究では、上記の校本を活用しながら『古今六帖』成立時の本文の姿をできる限り再現し、そのうえで部や項目の名称や配列といった歌集の「構成」について検討を加えることとした。というのも、歌集にどのような和歌を収集し、それらの和歌をいかに分類・配列するかという歌集構成には、撰者による歌集編纂の事情・意図と、歌集が生み出された和歌史的背景との両面が如実に反映しているとみられるからである。

2．研究の目的

本研究の目的は、『古今和歌六帖』の構成に注目したうえで、その構成が、前代の『万葉集』や『古今和歌集』からいかなる影響を受けて成立したものであるのか、また後世の『伊勢物語』や『源氏物語』等の作品にいかなる影響を与えたものであるのかを明らかにすることにある。それはひいては、新たな古代和歌史の構築につながるものであると考える。

3．研究の方法

上記の研究の目標をふまえ、本研究ではまず、『古今和歌六帖』の和歌分類の方法に注目し、同集の構成がいかなるものであるかの解明に取り組んだ。そのうえで、『古今和歌集』等の前代の歌集の構成との比較を行ったり、『伊勢物語』との相互の影響関係に分析を加えたりすることで、『古今和歌六帖』の構成の特徴をあぶり出し、同集を和歌史の動態のなかに位置づけることを目指した。

4．研究成果

具体的な研究成果としては以下の論文を公表することができた。

（1）田中智子「四季のはじめとはての和歌 古今和歌集と古今和歌六帖を中心に」(『四国大学紀要人文・社会科学編』56、2021年)

本稿では、『古今集』四季部からの影響に注目しながら、『古今和歌六帖』歳時部の構成に検討を

加えた。特に、春夏秋冬の各季のはじめとはてに どのような歌が据えられているかという問題に注目し、『古今和歌六帖』歳時部における春夏秋冬各季のはじめとはての歌の採歌方針が、『古今集』四季部における四季のはじめ・はての歌の配列方針を、より明確化させたものであることなどを論じた。稿者は以前より、『古今和歌六帖』の和歌部類・採歌の方針が『古今集』の配列構造をふまえたものであることを、主に『古今和歌六帖』雑思部と『古今集』恋部との比較を中心に論じてきた。こうした過去の研究成果をふまえつつ、本稿で、『古今和歌六帖』歳時部の各項目の立項に際しても、『古今集』四季部の和歌の配列法がふまえられている点を明らかにしたのは、大きな収穫であったと考える。四季歌と恋歌は平安朝和歌の大きな主題であるが、その両方において、『古今和歌六帖』は『古今集』のあり方を踏襲、発展させたものとみられるのである。

(2) 田中智子「古今和歌六帖と伊勢物語」(『国語と国文学』99-7、2022年)

『古今和歌六帖』には序がなく、その成立過程、成立年代には不明な点が少なくないが、10世紀後半頃の成立とする見方が有力である。それゆえ従来一般に、『伊勢物語』と『古今和歌六帖』に重出する歌については、基本的に『古今和歌六帖』が『伊勢物語』から採録したものと考えられてきた。これに対して稿者は、両作品の重出歌すべてに検討を加えることで、『古今和歌六帖』の歌に『伊勢物語』から採られたものがある一方で、『伊勢物語』の複数の章段において、『古今和歌六帖』から採歌して歌物語が創造された可能性があることを明らかにした。つまり『古今和歌六帖』はある段階の『伊勢物語』を撰集資料として成立したが、のちに『伊勢物語』の章段が増補された際に、『古今和歌六帖』の歌が物語に取り込まれて歌物語が生み出されたということである。本研究は、『古今和歌六帖』研究に資するのみならず、『伊勢物語』研究にも一石を投じるものであると考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 田中智子	4. 巻 99-7
2. 論文標題 古今和歌六帖と伊勢物語	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 国語と国文学	6. 最初と最後の頁 20-34
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中智子	4. 巻 56
2. 論文標題 四季のはじめとはての和歌 古今和歌集と古今和歌六帖を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 四国大学紀要人文・社会科学編	6. 最初と最後の頁 91-101
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------